

kigokoro

EIDAI Corporate PR Magazine Summer 2025 / vol.24



kigokoro

Summer 2025 / vol.24

第24号 令和7年7月1日発行
編集・発行：永大産業株式会社 事業管理部 広報課
〒559-8658 大阪市住之江区平林南2-10-60 TEL:06-6684-3058 FAX:06-6684-3051



約300mm幅のワイドサイズ 床暖房対応の直貼り遮音フローリング

幅広サイズでモチーフとなる素材の表情を余すところなく表現しました。
新築マンション、リフォーム、リノベーションに最適です。
また、トレンド感ある異素材ミックスコーディネートが可能です。



永大産業株式会社
www.eidai.com

お客様相談センター

☎ 0120-685-110 [受付時間] 平日9:00~17:00 (休業日:土曜日・日曜日・祝日・夏期休暇・年末年始)

EIDAI ショールームでお確かめください。

EIDAI SR

検索





「業界初と言えるぐらいの製品になったのでは!？」と振り返る開発メンバーたち。

開発者の声

意匠と性能を両立できる、最適な落としどころを探し求めて。

非木質意匠の魅力を十分に引き出すためには、製品幅を広げることが必要。しかし、そうすると遮音性能が低下してしまい、寸法変化も大きくなる——そのジレンマをどのように解消していったのか、開発メンバーに聞きました。



親子ほどの年齢差で共に取り組んだ二人。「技術継承のために話しやすい雰囲気づくりを心がけ、密にコミュニケーションしました」と近藤。

かなりの苦労があったのでは……。実際、どうやって意匠と性能を両立したのですか。

近藤 遮音性能試験で使用する、タッピングマシンという機械があります。この機械が発生させる音エネルギーを周波数別に測定するのですが、周波数ごとで異なる対策が必要となります。

吉廣 おつしやる通り、従来の直貼り遮音フロリングは145mm幅が主流でした。その幅だと、『コンカーボ』で好評だった、石らしさや、モルタルらしさを表現することができません。タイル調がタイルに見えないんです。しかし、幅を広げれば広げるほど音は伝わりやすくなって遮音性能が下がり、寸法変化も起こりやすくなる。そのジレンマをどのように解消するかが大問題でした。当初は誰もが「できるわけがない」と言いました。

【コンカーボダイレクト】は約300mm幅ですが、直貼り遮音タイプでこのワイド幅は画期的ですね。



建材事業部 商品部 開発室 間宮 杏 商品一課長 吉廣 仁
商品一課 田中 優芽
(後列左から) 次長 兼 開発室長 藤本 一雄
開発室 主任研究員 近藤 久嗣

先行して昨年、展示会でお披露目したのですが、その時の反響はいかがでしたか。

田中 会場に直貼りして、来場者の方々にデザインだけでなく歩行感まで確かめていただいたのですが、とても好評でした。展示会後も営業への問い合わせが続きました。

近藤 「他社にはない製品なので、自信を持って営業できる」という話も聞いています。今後は、さらに市場の反応を見てお客様の声も聞きながら、新柄の投入などを検討していきたいと考えています。

間宮 いろんな試験を実施し、何度も試作を重ねました。これで大丈夫!と思ってても試験でダメだったり、本当にトライ&エラーの繰り返しでした。

吉廣 あまり詳しいことは企業秘密で言えないのですが(笑)、最終的にはフロリングを構成する各材料に対策を実施することで、ついに音エネルギーの分散、変換、減衰に成功。外部機関での試験で合格となった時は、思わずガッツポーズが出ました。



ライトモルタル柄



ピアンコマープル柄



モルタル柄

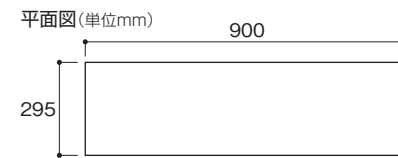
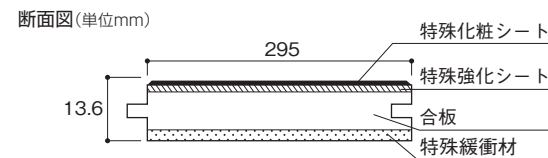


セラミック柄



ダークスレート柄

製品仕様 素材感がより際立つ、295mmの幅広サイズです。



詳細はこちら

ワイド幅でありながら、マンションに求められる遮音性能や床暖房対応を実現

住まいに対する価値観の変化により、近年は機能だけでなく、空間の雰囲気づくりや個性の演出が重視されています。インテリアにおいても、石目調やモルタル調などを取り入れた異素材ミックスコーディネートが主流に。こうしたトレンドに合わせ、2023年に発売した高意匠フロリング『コンカーボ』では、モダンな非木質意匠を取り入れて好評をいただきました。これと同じ化粧シートを使用し、かつマンション等でお使いいただけるように遮音性能を高めて床暖房対応も実現したのが、今回発売した『コンカーボダイレクト』です。

ワイドな約300mm幅は、空間に迫力と広がりを出す。マンションのリビングやLDK空間を一段と洗練された雰囲気仕上げてます。マンションなどの集合住宅で採用されることの多い、芯々950mm前後モジュールでの廊下部の有効幅(890mm前後)を考慮して、施工性の良い295mm幅のサイズとしました。遮音性能はL45等級をしっかりと確保し、階下への生活音を抑えます。さらに、ワイド幅でありながら寸法安定性を有し、温度変化による伸縮が抑えられるため、床暖房仕上げ材としても安心してお使いいただけます。

また、施工性に優れていることもメリット。マンションでよく採用されるモルタル塗りやタイル貼りの床仕上げは、湿式工事となつて手間がかかるうえ、遮音性能や床暖房性能を担保することが困難です。『コンカーボダイレクト』であれば、これらの性能を担保しつつ、乾式の木工事で仕上げることも可能です。

木の力を活かす

木造建築の可能性

2

木造建築に関する法規制の緩和やCLTなどの新しい木質建材の登場、さらに地球温暖化防止やカーボンニュートラルなどの環境重視の姿勢も加わり、木造の建築物は増加しています。

今号では、明治神宮や代々木公園の最寄り駅で、「木と緑に溶け込む『杜』の玄関口」をデザインテーマに内装木質化を行った、小田急電鉄の参宮橋駅をご紹介します。

明治神宮の玄関口として

駅舎を木質化された背景をお教ください

参宮橋駅は地域住民の利用とともに、明治神宮の玄関口として、外国人も含めた来街者の利用も多い駅です。2018年から2020年にわたって行われた駅舎改修工事では、地域住民に愛されるような「親しみ」と、明治神宮や代々木の杜への玄関口としての「趣」を兼ね備えた駅となるよう、「木と緑に溶け込む『杜』の玄関口」をコンセプトにしました。また、日本らしいデザインと緑に溶け込みながら、木の温かみを感じられる風景を作りたいと考えました。

街の人々と東京の木との「接点」を作る駅舎にはどのような特長がありますか？

明治神宮の玄関口を意識して、荘厳な社殿を連想させるよう、垂木や組木をあしらったデザインを取り入れています。木材は地場の多摩産材をふんだんに使用しています。木の良さを最大限に感じている

また、設計の段階では、特にルーバーの木口部分が雨濡れで劣化することが懸念されたため、この部分を折版屋根でカバーしつつ、それが視界に入らないように調整する工夫をしました。

地域連携の機会も

駅を利用されるお客様に変化はありましたか？

駅をきれいにしたことで、地域の皆さんから多くの喜びの声をいただきました。さらに、参宮橋駅を利用している最寄りの大学のインテリア学科から、木材に関する連携授業のお声がけをいただくなど、駅をハブにした地域連携の機会も生まれています。

地場産材の地産地消

会社全体や駅の木質化を通じて、環境へのお考えをお聞かせください

小田急グループでは、環境ビジョン『カーボンニュートラル2050』を掲げ、美しい地球環境と優しい社会を未来の世代に引き継ぐことを使命としています。事業活動を通じて、CO2排出削減や資源循環、自然資源の保全・活用などの環境課題に積極的に取り組んでいます。駅空間への木材活用を通じた地場産材の地産地消も、こうした活動の一環として今後も推進していきたいと考えています。

また、参宮橋駅が改修された際には、地域の子どもを対象としたワークショップを開催しました。木育という大げさですが、子どもたちが木材に触れる機会を提供することで、これからの世代が木材に関心を持ち、そ

たにくために合板を使わず、できるだけ無垢材を使用しています。また、人々の手に触れやすい柱などには節のない部分を、改札の壁や組木部分は反ったり曲がったりしないように集成材を使用するなどの工夫をしています。

地場産材を積極活用し、森林資源の循環利用を促進することはもちろんですが、駅空間という誰もが利用する空間に取り入れることによって、「街の人々と東京の木との『接点』を作る」ということも大きな意義があると考えています。

行き届いたメンテナンスを

木造の駅舎建築に当たって苦労した点をお教ください

使用した木材が風雨によって劣化すると、全交換が必要となります。そうなる費用や工期がかかってしまうため、木材部分をできる限り長持ちさせることを意識しました。劣化の進行に気を付けながら、定期的な点検と塗装などのメンテナンスを行っています。

れが地場産業の活性化につながることを期待しています。地場の林業に関わる産業、そして地域経済を活性化させることにより、森林の「伐採・利用・植栽・保育」といった木材資源の循環を継続させることで、都市部における環境保全につなげたいと考えています。

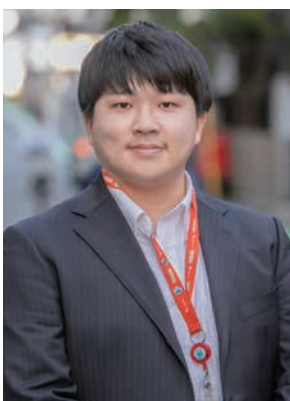


駅利用者や近隣住民にも多摩産材使用をPR

林業や地域経済を活性化

今後の取り組みをお教ください

参宮橋駅のほかにも、片瀬江ノ島駅などで地場産材（神奈川県産材）を活用しており、今後も地場産材を取り入れた駅空間の創出を検討していきます。駅を木質化したところで、駅の利用人数が増加するわけではありませんが、利用する皆さんに木の香りや居心地の良さを感じてもらい、地元駅に愛着を持ってもらうことも一つのゴールと考えています。



小田急電鉄株式会社 工務部
糟谷 拓海様



改札口の内装も木質化



「組木」をイメージした改札の屋根部分



駅名看板



「垂木」をイメージしたホームの天井



小田急電鉄 参宮橋駅 [住所] 東京都渋谷区代々木4丁目6-7

[ホームページ] <https://www.odakyu.jp> (小田急電鉄株式会社)



小田急電鉄株式会社



ちょっと
一息の

木と 短歌

あしひき

足引のやまのかけぢの猿滑り
すべらかにても世をわたらばや

さるなめ

ふじわらのためいえ
藤原為家

蹴鞠に熱中した青年期を経て、
次第に父譲りの歌才を発揮した藤原為家

藤原為家は、鎌倉時代中期の公卿くぎょう・国政を担う高官であり歌人です。父は『小倉百人一首』の選者として知られる藤原定家（ふじわらのさだいえ）。息子である為家は、青年期は蹴鞠に熱中したものの、歌人として優れていた天台宗の僧・慈円に諭されて『為家千首』を詠み、父に認められたという逸話があります。その後は歌壇に重きをなし、『続後撰和歌集』『続古今和歌集』の撰者となりました。

「すべる」と「なめらか」、
一首の中に二つの意味を込めた面白さ

『足引の』の掲出歌は、『天木和歌抄（ふぼくわかしょう）』に収められた一首です。サルナメリとは、サルスベリの異名。どちらの名前も、広く知られているように、樹幹がなめらかで木登りの上手な猿でもすべってしまうという意味を表しています。

「山の険しい道はサルナメリのようにすべりやすいが、せめて世の中はなめらかに渡りたいものだ」。漢字では同じ「滑」を、前半は「すべる」というマイナスの意味、後半は「なめらか」というプラスの意味で使ったところに面白みがあります。鎌倉時代は権力争いが激し

く、油断するとすぐ足元を掬われたことでしょう。そんな中でも為家の出世欲が表れた一首で、事実、為家は父を超える権大納言まで昇り詰めました。

サルスベリの花には鑑賞価値があり、
木は住まいの中で主に床柱として人気

サルスベリは中国南部が原産で、7月頃から次々と花が開き、百日ほど長く咲き続けることから百日紅（ヒャクジツコウ）とも呼ばれています。木材としての材質は、緻密で硬く、腐りにくいため、土木杭や線路の枕木などに使われてきました。住まいの中では、やや曲がりのある姿形をひとつの味わいとして、床の間の床柱に多く使われています。

鑑賞のヒント

「足引の」は「山」にかかる枕詞。「かけぢ懸け路」は険しい山道。「わたらばや」「ばや」は自己の願望を表す終助詞で「〜したい」という意味です。願望を表す終助詞は他に「なむ」もあります。こちらは他者への願望で「〜してほしい」という意味になります。

EIDAI Headline News

中国電力株式会社様との間でオンサイトPPA契約を締結

当社はこの度、非化石エネルギーへの転換、電力需要逼迫時の抑制という課題を解決するため、中国電力株式会社様と20年のオンサイトPPA契約を締結し、当社の山口・平生事業所に太陽光発電設備を設置して発電を開始しました。これにより、購入電力量を削減するとともに、環境負荷の低減にも寄与します。



山口・平生事業所に設置された太陽光発電設備

オンサイトPPA契約とは、需要家（当社 山口・平生事業所）の敷地内に発電事業者（中国電力株式会社様）が太陽光発電設備を導入し、需要家が発電事業者から消費電力量に応じた電気料金を支払います。オンサイトPPAが注目を集めているのは、再生可能エネルギー発電設備の設置費用やメンテナンス費用を発電事業者が負担して導入が可能なためで、これにより、需要家は低コストで再エネ電力を長期的に購入できます。

山口・平生事業所内に設置された太陽光発電パネルの出力は約233kWで、年間で約259,624kWhの発電が見込まれています。これにより、山口・平生事業所の電気使用に伴うCO₂排出量を2.2%（約135トン）削減する見込みです。



存在感が際立つ石目調のキッチン



広々としたサニタリーに置かれたベッセルタイプの『アクアージュsai』は、グレートーンでコーディネートされており、落ち着いた雰囲気を出しています。



1 階サニタリー／
●洗面化粧台 『アクアージュsai』ボウル：ホワイト
扉柄：トープグレー柄 カウンター：人工大理石

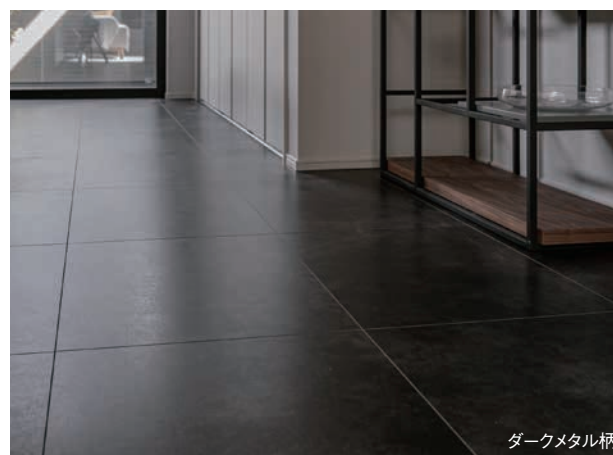


1階キッチン／
●キッチン『ラフィーナ ネオ』
天板：人造石 ミスティブラック柄
扉柄：リアリスタブラック柄
●フローリング『コンカーボ』ダークメタル柄
●収納『スキスムT クロゼット折れ戸』ノーブルベージュ柄

メインルーム／
●フローリング『コンカーボ』ベージュマーブル柄
●室内ドア『スキスムT JDデザイン』ノーブルベージュ柄

ベージュを基調とした室内空間にダークメタル柄の『コンカーボ』とリアリスタブラック柄の『ラフィーナ ネオ』がアクセントになり、上質な空間に仕上がりました。

非木質意匠フローリングの色柄違いのコーディネートは、異素材ミックスコーディネートとは異なる美しい調和を見せ、新しい発見となりました。



ダークメタル柄



ベージュマーブル柄

最新 納入事例

フローリング、キッチン
室内ドア、洗面化粧台

『コンカーボ』 『ラフィーナネオ』 『アクアージュsai』 ほか

習志野市・船橋市を中心に、千葉エリアの新築注文住宅やアパート建築事業を展開されている建築工房 櫓 YAGURA 様では、このほど、『コンカーボ』や『ラフィーナネオ』などを使った建売住宅を建築されました。
MODERN & LUXURY を意識して設計された住宅は、ベージュマーブル柄を基調とした統一感のある雰囲気、日常を非日常へと誘う仕上がりとなりました。
今回の kigokoro では建築工房 櫓様の採用事例をご紹介します。

千葉県習志野市 建築工房 櫓 物件



建築工房 櫓 設計部
名取 昌俊様 瀬ノ田 菜々様

施工：建築工房 櫓様

展示会でノーブルベージュ柄の室内ドアを見て、ぜひこの色を使いたいと思いました。フロアは非木質意匠と考えていたので、『コンカーボ』のベージュマーブル柄を、そしてそれに合わせて壁紙を選定しました。また、キッチンは重厚感ある連続石目柄のブラックを使いたかったので、フロアもそれに合わせてダーク系の色柄を検討し、ダークメタル柄にしました。

フロアは異素材コーディネートが流行で、非木質意匠どうしの組み合わせは初めてでしたが、仕上がりはとてもまとまった感じで違和感なく、思い描いていたイメージどおりでした。

建築工房 櫓では、デザイン性の高さと暮らしやすさの両立を大切にしながら、背伸びしすぎない等身代の美しさと快適さを兼ね備えた住まいをご提案しています。「納得していただくより満足していただける家づくり」をモットーに、素材感や配色、生活動線まで細部にこだわり、「心からくふう」された空間が毎日の暮らしに彩りと心地よさをもたらします。

日本の木になる風景

千葉県 君津市

濃溝の滝・亀岩の洞窟

光が描き出すハートが神秘的な、ロマンチックな洞窟。



特定の条件が揃うと、太陽の光がハート型を作り出します。

亀岩の洞窟を訪れた時、あいにくの雨模様だった。しかし、木々は生々とし、道中はマイナスイオンで満たされていた。最寄りの駐車場から5分ほど歩くと滝の音が聞こえ、ほどなくして目の前に亀岩の洞窟が現れた。

この場所が有名になったのは、3月・9月のお彼岸の時期の早朝に洞窟の奥から差し込む光が水面に反射し、ハートの形を描き出す写真がSNSを中心に話題になったことからだった。

この日は流石に見ることが出来なかったが、それでも、とても神秘的な雰囲気包まれていた。平日でさらに雨が降っていたこともあり、この景色を独り占めできたのはとても幸運だった。

ちなみに、洞窟の中を流れている滝が濃溝の滝だと勘違いする方が多いようだが、実際の滝は洞窟から50メートルほど下流にあり、遊歩道から見ることが出来る。

洞窟のまわりでは青もみじが綺麗な萌葱色に染まっていた、初夏の訪れを感じさせていた。

また、洞窟から続くせせらぎ治いには木道も整備されており、夏の訪れと共に夕方にはホタルが舞い、秋になるともみじの葉が真っ赤に染まる景色を見ることが出来る。水面に映し出されるハートの光だけでなく、四季折々の趣が感じられるパワースポットだった。



EIDAI HISTORY

第24回 建材（木質フローリング）

10

前回に引き続き、建材（木質フローリング）の歴史についてご紹介します。

2001年（平成13年）は、21世紀の始まりとともに世界的に波乱の年となりました。9月にはアメリカで同時多発テロが発生し、世界的な景気の減速が見られた頃、日本では政治や経済の閉塞感に対する国民の不満が高まる中、小泉純一郎氏が首相に就任し、「小泉旋風」と呼ばれる改革ブームが巻き起こりました。

この頃、建材業界でも大きな変化が起こっていました。2000年（平成12年）ごろから、フロア市場は大きく変わり、以前は人気だった濃色のカラーフロアから、樹種そのものの特性を活かした明るい塗装が好まれるようになりました。それに伴い、従来はフロア材と言えばオークなどの環孔材が主流でしたが、カバやブナなどの散孔材が人気を集めるようになりました。当社でもカバのツキ板を使用したフロアの生産量が40%を超える勢いとなりましたが、各社とも資源の取り合い状態で、安定供給や品質に問題が出てきました。ちょうどその頃、森林の違法伐採が世界的な問題として注目されており、特に東南アジアや南米、アフリカなどの熱帯地域での違法伐採が深刻な問題として取り上げられていました。そこで当社は、ヨーロッパの森で200年以上、自



『ビーチヨーロッパフロア』（'03-'04 床・壁・階段・建築部材・EDホームカタログより）

然の成長サイクルに合わせた森林全体の維持と伐採管理が計画的に行われているヨーロッパビーチに着目しました。このサステナブルな材は、環境に配慮し、社会との共生を目指す当社のコンセプトにも合致するものでした。

ビーチ材は昔からフローリングや家具の材料として広く使われてきました。当社では、ナラやオーク、カバ

に続く新しい流行を作るため、ヨーロッパの植林ビーチに注目しました。この材をどのようにして効率よく利用し、ビーチの良さを最大限に引き出して製品化するかを検討しました。しかし、これまで使用してきた環孔材の扱いとは大きな違いがあり、特にビーチ材の利用には大きな課題がありました。ビーチは含水率が高いため、製材したそのまゝの状態ですぐにカビが生えてしまい、使い物にならなくなってしまう。そのため、人工的に乾燥させて含水率を下けた状態で輸入する必要がありました。次に、フローリングのツキ板に加工するためには、乾燥させた部材を元の含水率に戻さなければなりません。そのために当社独特の加工方法を編み出し、これに対応しました。しかし、いざツキ板に加工する時になって、今度は材の内部にクラックがあったなど、量・質

ともに安定して使用するには一筋縄ではいきませんでした。これらの問題を解決するために、総合研究所の技術開発チームと、生産を担当していた山口・平生事業所建材工場では、特殊な装置を導入するなど、昼夜を問わず研究と試行錯誤を重ねました。その結果、品質の安定化と歩留まりの向上を実現させ、2002年（平成14年）に『ビーチヨーロッパフロア』の発売にこぎつけました。この製品は従来のフロアの機能性に加え、きめ細かな木肌と優しい雰囲気を持つ散孔材を取り入れたことで、すぐに人気となりました。『ビーチヨーロッパフロア』は、ビーチ材の扱いや製品化の技術の難しさから、他社の追従を許さず、「ビーチと言えば永大」と連想してもらえる売れ筋の製品となりました。

当時、散孔材の表情を活かしたフロアと共に、高いツヤを持つフローリングが流行していました。当社は耐傷性に優れ、平滑さを実現した新しい塗装法（クリスタル塗装）を開発し、美しさと強さを併せ持つ最高位フロア『ビーチヨーロッパフロアクリスタル』を発売したのでした。

（次号に続く）

1946 (S21) < 1950 (S25) < 1955 (S30) < 1960 (S35) < 1965 (S40) < 1970 (S45) < 1975 (S50) < 1980 (S55) < 1985 (S60) < 1990 (H2) < 1995 (H7) < 2000 (H12) < 2005 (H17) < 2010 (H22) < 2015 (H27) < 2020 (R2) < 2021 (R3) < 2022 (R4) < 2023 (R5) < 2024 (R6) < 2025 (R7)

編集後記

今回の取材でお伺いした参宮橋駅から徒歩数分で訪れることができる明治神宮は、本殿へと続く参道に多くの木々が生き茂り、都会の喧騒を忘れさせてくれます。本殿に参詣し、数々の見どころやパワースポットを巡ると、多くの外国人観光客の姿が見られました。神聖な場所である

ため外国人観光客もおしゃべりを控え、神秘的な表情でこちない手つきながらも拍手を打つ姿が印象的でした。

明治神宮は国内外の観光客にとっても特別な場所であり、その静寂と神聖さが訪れる人にも深い感動を与えています。

お断り：原則、文中での敬称は省略させていただいております。



【後列左から】川田、桂田
【前列左から】関原、英（所長）、土屋



カントリーレストラン「スワン」のチキンカツ

営業マンの
オススメ
ランチ!!